

やじきた道中 てれすこ

2007(平成19)年12月1日鑑賞<梅田ピカデリー>

★★★



監督＝平山秀幸／出演＝中村勘三郎／柄本明／小泉今日子／ラサール石井／笑福亭松之助／淡路恵子／間寛平／波乃久里子／鷹赤兎／松重豊／山本浩司／吉川晃司／鈴木蘭々／星野亜希／藤山直美／國村隼／笹野高史（松竹配給／2007年日本映画／108分）

第2章

映像が先か、活字が先か

……弥次さん・喜多さんの珍道中に、『てれすこ』をはじめたくさんの落語ネタをちりばめた、今風の「癒し」映画がコレ！ 小泉今日子の起用が大ヒットで、弥次さんのバカさ加減と絶妙のマッチング！ この映画に限っては小難しい評論はなし！ うまく息抜きできれば、それで十分！

たまには、こんな映画も……

2007年11月は普通の試写室通いの他、「中国映画の全貌2007」で15本の中国映画を観たため、月間39本という超人的な数に。それを全部評論しているのだから、その大変さをご理解いただけるはず。

そんな私がちょっとした「息抜き」的に観た『やじきた道中 てれすこ』は、弥次郎兵衛（中村勘三郎）と喜多八（柄本明）によるやじきた道中に落語ネタの『てれすこ』を絡め、さらにアイドル歌手から女優への転身を見事に果たした小泉今日子をストーリー構成の軸として起用したもの。パンフレットは本文100頁とたくさんの写真で構成されているから、1000円と若干高いものの、充実度・満足度は合格点。そしてそれを読めば、この映画の見どころや解説はバッチリ。

したがって、私がここにその要点をまとめる意味はないし、それをやる気もなし。そこで、この映画に関しては私の真面目な評論はなしとし、ちょっと思いついたいくつかのコメントのみを……。

落語ネタと映画

最近思っているのは、落語ネタを映画にしたものは面白いということ。その筆頭は

『寝ずの番』(06年)だが、8月7日に観た『怪談』(07年)も11月27日に観た『歓喜の歌』(07年)もそうだった。そして多分12月9日に観る予定の『しゃべれどもしゃべれども』(07年)もそう。

『やじきた道中 てれすこ』は、タイトルの『てれすこ』をはじめ、『お茶汲み』『浮世床』『淀五郎』『狸賽』『野晒し』など様々な落語ネタをちりばめて、人肌のぬくもりがある世界を作り上げている」とのことだから、落語の好きな人は必見！ また逆に、この映画をきっかけにそのネタとなっている落語を聴くのもいいのでは……？

はじめて知った切り指のお話

遊女は男を騙すのが商売だから、ある遊女が3人の男に「あなたと結婚します」という起請文を書いて心変わりしないことを約束したという話は有名。しかし、この映画を観てはじめて知ったのは、「切り指」の習慣があること。そして、何と小泉今日子扮する花魁のお喜乃は、弥次さん製作の新粉細工の切り指を、色気坊主である木蓮寺の和尚(磨赤兒)らに47本も！

そのうえ、弥次さんが自分にゾッコンであることを十分承知しているお喜乃は、弥次さんに「足抜け」の協力をしてもらうべく、弥次さんに対して切り指のお芝居を。左手の小指を赤い布と赤い糸で巻いた切り指のお芝居は見事といえば見事だが、そんな芝居にコロリと騙される弥次さんはよほどのバカかお人好し。まあ、落語の世界の登場人物はそんなヤツばかりだが……。

絶品の首吊りシーンに拍手！

喜多さんを演ずる柄本明は最近では『呉清源 極みの棋譜』(06年)での静かな演技が印象に残ったが、どの作品でも存在感を示す名優。その柄本が演ずるこの映画での「首吊りシーン」は絶品！

両手で何とか首を支えて頑張っているものの、長丁場にわたってシーソーのように上がったたり下がったりするのは大変だったはず。とりわけ、一方の重しとなっている灯笼の上にネコが飛びのったためバランスが失われた時は一瞬ヒヤリ……？

さらに、喜多さんは酒に酔えば恐ろしい本性が露呈されるらしいが、それを知らないお喜乃が酒を勧めたために起きた宿屋での大騒動は……？ また、そこで演じられた柄本のおどろおどろしい酒乱ぶりは……？

2007(平成19)年12月4日記